

子どもの学力を高める学習習慣の定着をめざして

下関市立桜山小学校 PTA

1 学校地域の概要

校区一帯は昔、赤間関市（現下の関市）の周辺地として静かな所であったが、明治34年山陽線の開通、明治38年関釜航路の開通などによる下関の繁栄は次第に西部にも及んだ。特に下関駅の現在地移転後は、より発展した。児童数も創立当時の608人（9クラス）から1815人（31クラス）まで増え続けた。昭和32年神田小学校の新設に伴い、新地町・伊崎町・新地西町の一部が同校に移り、商店街地域は少なくなった。近年、高層アパート等の建築が目覚しく下関西部における交通至便の住宅地域となっている。少子化に伴う児童数の減少により、平成29年4月、神田小学校と統合し、現在に至っている。

校区には明治維新の志士を祭る桜山神社をはじめ、新地会所跡、高杉晋作終焉の地、白石正一郎旧宅跡等多くの史跡が点在する。また、天然の良港として栄えた伊崎港が控え、漁師町の側面も見せている。

2 PTA（育友会他）の組織図

常任委員会		会長	顧問 校長
副会長 5名			
総務 2名		庶務 5名	
バザー部 3名		保健体育部 3名	施設厚生部 3名
		広報部 3名	
バザー委員 7名		地区委員	
		太平	西富。桑内
		南大坪	伊崎1町
		南大坪市街地	伊崎2町
			伊崎3町
		筋川	今浦町
		西大坪	新地1町
		上1.2	新地2町
		上新地3町	新地市営
		上3・4	桜山町
		上5	西神田町
監査 2名		上新地1丁目	山手町

3 研究テーマについて

4月に行われた学力学習状況調査の結果が、学校運営協議会において学校より示された。それによると、本校児童の学力は非常に厳しい状況にあるというものであった。この状況の大きな要因の一つに家庭での学習時間の不足が指摘された。本校は家庭的な状況から、児童の家庭学習に積極的に関わることのできる保護者は多くはないというのが現実である。最も、学習習慣の定着が必要な低学年の時期に、家庭の支援が難しいとなると、正しい学習習慣を身に付けることは困難である。また、子どもたちだけで放課後を過ごしている状態も、健全な発達上好ましいものとは言えない。こうした課題を解決するため、桜山小PTAでは、学校、地域の支援団体と力を合わせながら「子どもの学力を高める学習習慣の定着をめざして」という研究テーマを掲げて関係者一体となって取り組むこととした。学校課題をPTA・地域の課題とすることで効果的な取り組みを可能にできると考えたからである。

4 活動内容

① 放課後学習支援

家庭に帰ると、学習が困難な状況にあれば、学校で家庭学習に取り組む時間を確保すればよい。学校と協議を重ねた結果、月曜日と金曜日の放課後に家庭学習を行う時間を設定した。教職員とPTAが協力して子どもたちの学習の手助けを行うものである。水曜日には、地域の支援団体である **kananowa** の協力を得て、学習支援と合わせて放課後の居場所づくりにも取り組んだ。こうした活動によって、これま



で宿題をすることすらできなかった子どもたちが、笑顔で宿題を提出する姿が見られるようになったという。少しでも家庭学習を行うことで学習内容が定着し、授業への取り組みにも変化が表れたという教職員の声も聞かれるようになった。また、保護者からは仕事が終わって疲れているのに宿題をしろとうるさく言わずにすむようになった。子どもと話をする時間が生まれたという嬉しい声も聞こえてきた。



場所は、本校のランチルーム。当初、この部屋には網戸がなく蚊の多い夏場の使用は不可能であったが、助成をいただいたことで網戸を取り付けることができ、風通しのよい中で子どもたちが学べるようになった。放課後学習だけでなく、従来おこなっていた放課後子ども教室の利用にも役立った。

② 放課後子ども教室

本校では、PTAと地域の支援団体「さくらんぼ」が協力して子どもたちの放課後の過ごし方の充実に努めている。今年度は、1学期、2学期各1回行われた。ソーメンでクッキーを作ったり、針金とブザーを使ったおもちゃ作りを行った。子どもたちは毎回この活動を楽しみにしている。ここでもランチルームが活用されている。

③ 授業支援

本校の最も大きな特色は、授業の中にPTAが参加し、教職員と共に子どもたちの学習を支えているということである。学力向上の鍵は学習習慣の定着と、日々のきめ細かい指導にあると言える。こうしたきめ細かい指導を行うためには担任一人の力では難しい。そこで、学校との話し合いで、担任の方針に従って授業中の子どもの支援に入ることとなった。教科は算数。学年は3年と5年。1クラスの人数が多い学年である。少人数指導を更にきめ細かく見守り、困っている児童に集中して支援を行うこととした。支援に入るにあたっては、「守秘義務を守ること」「担任の指示に従うこと」「授業中は指導者として子どもに接すること」を条件とし、確約が取れた者のみが授業支援を行った。多くの目で見、着実に担任の指示を伝えていくことで、学習が困難であった児童も見違えるように楽しく授業に取り組めるようになっていった。分かれば楽しいということを実感した活動であった。



④ 学年活動への支援

本校では、それぞれの学年PTAが主体となって学校と協力しながら学年活動を行っている。地域に住む方を講師としたバルーンアートや水族館とタイアップした水辺の教室など、地域に根ざした活動が展開されている。PTAとして毎年予算化し、継続した支援を行っている。ここでも、ランチルームが大いに活用されている。



⑤ 朝の読み聞かせ



子どもたちの読書活動充実のために、本校ではPTAが主体となって読み聞かせ活動を行っている。毎週金曜日の朝学時間を活用し、すべての学年で読み聞かせを行っている。これは、読解力育成に力を入れたいという学校側の要請もあり、学習習慣の定着と合わせて読書週間の定着にも一役買っているところである。子どもたちは毎週この時間を楽しみにしている。

⑥ 子どもの学びを充実させる環境づくり



子どもたちの学びを充実したものにするには、学習の支援だけではない。昼休みの過ごし方や季節感のある環境づくりも大切であると考え。そこで、本校では、和室を活用して雨の日など、外で遊べない子どもたちのためにカルタを行っている。また、3月には雛人形を飾るなど、季節感を感じられるような環境づくりにも努めている。桃の花と雛人形の中で行う百人一首は非常に雰囲気がいいと子どもたちにも好評である。和室の障子張りもPTAの作業で行った。

⑦ 活動予算を支える桜っ子バザー

本校では、毎年11月の土曜参観日にPTA主催のバザーを行っている。隔年で学習発表会が行われており、今年度は開催の年と重なったことから多くの人で賑わった。バザーの収益は主に図書費や花壇の肥料として使われる他、PTAの活動費としても使われ、子どもたちの学びに役立てられている。



5 成果と課題

この1年間「子どもの学力を高める学習習慣の定着をめざして」という研究テーマを掲げ、自分たちにできることを学校と一緒に考えながら実践してきた。これまで、側面的に学校を支えることの多かったPTAであるが、コミュニティ・スクールの推進に伴って学校課題に対して積極的に関わっていく方向に向かっているとと言える。こうした動きに対し、当初は批判的な意見をいただくこともあったが、子どもたちが安心して学ぶ姿が見られるようになってくると、肯定的な意見も多くなり、協力者の数も増えてきた。

今後は、この活動の輪を地域へも広げ、学校づくりを通して地域づくりが行えるようなPTA組織へと持続可能な発展を試みていきたいと思う。

【写真集】

* 放課後教室の様子

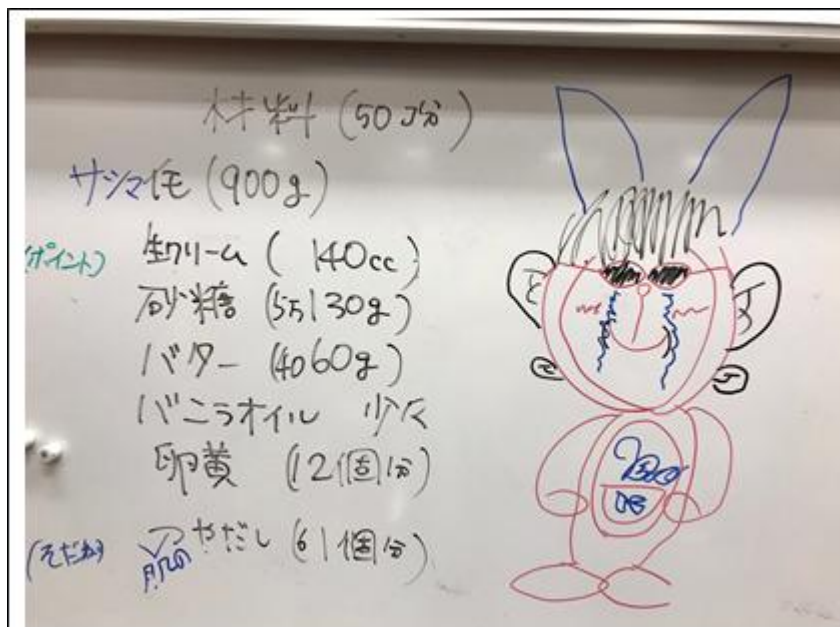


*みんなで、協力しました！



*スイートポテト作り

みんなで、おいしく出来ました！





(楽しくおいしいひととき)